

人魂火

長谷川時雨

青空文庫

これは私の父が、幼いころの気味の悪^{わる}るかつたことという、談^は
あたくし
 話^{なし}のおりにききましたことです。場処^{とおりあぶらちよう}は通^と油^{あぶら}町^{ちよう}でした。祖
 母が目をかけてやっていた、母子^{おやこ}二人世帯^{じよたい}の者が、祖母^{うち}の家の
へいそと
 塀^{へい}外^{そと}に住んでいた、その息子^{ほう}の方^{ほう}のことです。母親^{はは}という人は
 後家^{ごけ}で通して来たので、名代^{なだい}の気丈^{きぢやう}なものだつたそうですが、あ
 る夜、もうかれこれ更^ふけて、夏の夜でしたが、涼み台^{すずみだい}もしまおう
 という時分に、その後家^{ごけ}の家の軒^{のき}前^{さき}へ人魂^{ひとだま}がたしかに見えた
 と、近所の者が騒^{さわ}ぎだしたのです。私の父も見たともうしました。
 するとその母親が、息子が留守^{くす}だと思つて馬鹿^{ばか}にすると、大変^{うち}家^{うち}
 のなかから怒^こつたそうで御座^{ござ}いました。それでその折^しは過^{すぎ}てしま

ったのでしたが、翌朝になると祖母の処へ、その母親が顔色をかえてきて言うには、昨夜あれから間もなく、外で大変な風の音がしたと思うと、仏壇の位牌もなにもかも、みんな倒れました、それがいちどきにでしたから気になって、夜の明けるのを待兼ねてそこらを見ますと、息子の大切にしていた鉢植——盆栽ものがみんな倒れている。そればかりならまだしも、大きな音がして戸へもののぶつかつた窓から、仏壇へゆく途のものは、なにもかもみんな倒れているというので、母親は息子の帰らないのを、大変気にして祖母のところへ来たのですが、息子はいつも夜どまりをしつけているので、まさかとは頼みにもしていたのですが、ところが直近所の料理店へ、例も来る豆腐売りがぼんやりと荷物もも

たずに来て、実は昨夜、御近所の何さんに浜町河岸で、私が夜
網にゆく道で逢ったところが、なんでも一所にゆくといふので
出かけて、だんだん夜が更けてから、ふと気がつく、今までそ
こに立つて網をもっていた何さんの姿がなくなっている。どうし
た事かと一生懸命に呼びもしたり、探ねあかしたが、かいくれ行
方がしれぬので、まったく死んだのか、それとも自分がどうかし
ているのかと思って、お宅まで問合せに來たと語ったのから、
大騒ぎになったともうします。全く水に落ちて死んだので、その日
死体があがったと言います。父が見に行きました時、下むきにな
っていました、丁字髷は乱れて、小肥りの肩から、守袋
の銀ぐさりをかけていたということで御座います。

青空文庫情報

底本：「文豪怪談傑作選・特別篇 百物語怪談会」ちくま文庫、
筑摩書房

2007（平成19）年7月10日第1刷発行

底本の親本：「怪談会」柏舎書楼

1909（明治42）年発行

入力：門田裕志

校正：noriko saito

2007年11月20日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

人魂火

長谷川時雨

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>